

平成18年度入学式

日時：平成18年4月10日（月）

11:00～11:30

場所：奏楽堂

式次第

1. 奏楽
2. 入学許可
3. 学長式辞
4. 役員等紹介
5. 奏楽





学長式辞

「 躰 」



入学おめでとう。今日の日を、あなた達はあなた達自身の力でしっかりと掴みました。素晴らしいことだと思います。大変な日々を過ごしたことでしょう。また、あなた達の素晴らしさを認めた先生方ならびに事務職員の大変なお力がありました。そして、他の誰でもないあなた達を選んだのです。これも素晴らしいことだと思います。今日、この奏楽堂は満員です。第6ホール、あるいは5号館のホールでこの模様を映像でご覧になっているご両親に感謝の気持ちを忘れないでください。人は一人で成り立っているわけではないということを覚えておいてください。

芸大というところは、大変肥沃な土地だと思ってください。雑草を生やすのも、汗をかきながら耕して、種を植え、若葉から大木にするのも、全てはあなた達に掛かっています。学ぶことを待ってはいけません。わが身をもって先生方に立ち向かって行ってください。自分から求めることによってこそ、実になり大きな大木になります。その真剣な眼差しが曇らないようにしておいてください。

入学にあたり一つの提案をさせてください。この字を書きました。3つの字で成り立っています。古い時代の青銅器に鑄込まれていた文字を素材として3つ重なっています。これは「身」という字。自分自身の身という字。人間が横になっているときの姿です。右上にあるのが「羊」です。そして、その下にあるのが「大きい」という字です。分かりますか、これは「身」と「美しい」という字です。つまり「躰（しつけ）」という字です。俗に躰というと、「躰をさせられてる」とか、「躰が悪い」など否定的な言葉がよくあります。先ほど申し上げましたが、皆さんは自ら進んでいってください。例えばこれが、ヴァイオリンでありヴィオラでありチェロであって、3つが重なることによって1つの新しいアンサンブルができあがります。躰とはさせられるものではなく、わが身が美しくなるということです。自分がいい仕事をすれば、いい言葉を発すれば、いい恋をすればそして訴えれば、それは美しい姿であります。これから東京芸術大学で学び4年経ったときに、あるいは毎日、振り返って自分は美しいと思える日々を過ごして欲しいと思います。



これをもって、諸君の入学の祝いの言葉とします。